

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	数学・数理科学における海外研修I Overseas Training in Mathematics and Mathematical Sciences I		担当者所属・ 職名・氏名	理学研究科 教授 前川 泰則	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
<p>本科目では、学生は各自の研究テーマと同分野の研究者が所属する海外研究機関に数週間～1ヶ月程度滞在し、研究活動ならびに現地の研究者と研究交流を行う。海外渡航を通じて各自の研究分野に関する知識を深めるとともに、より高い研究技能を身に付け、国際的に活躍する人材の育成を図る。滞在先の海外研究機関および受入教員は、学生が指導教員と事前に相談の上で決める。</p>					
【到達目標】					
<p>(1) 大学院における学生各自の研究テーマについて、海外渡航を通じてそれに関する知識を深め、より高い研究技能が身に付く。 (2) 英語で研究討論ができるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>(1) 担当教員によるオリエンテーション（4月下旬～5月頃に開催） (2) 各指導教員による指導の下、各自で海外渡航の準備 (3) 海外研究機関に数週間～1ヶ月程度滞在 (4) 研修報告書の作成（海外渡航の終了後）</p>					
<p>本科目は大学院横断教育コースである「数学・数理科学イノベーション人材育成強化コース（通称：数学・数理科学コース）」を構成する科目であり、本科目の詳細はコースwebサイトにも掲載する。</p>					
【履修要件】					
<p>(1) 大学院における主要な研究テーマが数学・数理科学を基盤とする分野であること。 (2) 大学院横断教育コースの「数学・数理科学イノベーション人材育成強化コース（通称：数学・数理科学コース）」に登録すること*。 *2024年4月時点においてコースが開講している場合の要件。 (3) 各自の研究について英語でコミュニケーションをとるための最低限の語学力があること。 (4) 大学等からの助成金の利用も含め、海外渡航費用が確保できる見込みがあること（助成金等の情報については、コース運営委員会にも適宜お問い合わせください）。 (5) 海外渡航2週間前までに学研災付帯海外留学保険への加入を必須とする。</p> <p>履修を希望する学生は海外渡航の計画書（所定様式）をコース運営委員会に提出し、コース運営委員会が海外渡航の可否について審査する。コース運営委員会の判断によっては海外渡航を認めない場合がある。</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>海外研修前の準備（20%）、2．海外研修中の活動（60%）、3．海外研修後の総括（20%）、の三つの観点に基づき、コース運営委員会が総合的に評価する。評価の判断資料として、学生は以下</p>					
----- 数学・数理科学における海外研修I(2)へ続く -----					

数学・数理科学における海外研修I(2)

の報告書をコース運営委員会に提出する。

- (1) 指導教員が作成する海外研修準備状況に対する所見 (所定の様式)
- (2) 滞在時における学生のActivity Report (所定の様式)
- (3) 学生が作成する海外研修の総括に関する研修報告書 (所定の様式)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
特に無し。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

海外で研究活動を行う準備をする。

(その他 (オフィスアワー等))

- ・本科目の受講にあたっては、大学院横断教育コースの「数学・数理科学イノベーション人材育成強化コース (通称：数学・数理科学グローバルコース)」のコース登録も必要となります*。 * 2024年4月時点においてコースが開講している場合。
- ・渡航先の外務省危険レベルの変動状況によっては、コース運営委員会の判断により、渡航の取り消しを命じる場合がある。
- ・コース運営委員会での審議により、1ヵ月を超える渡航についても認める場合がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	数学・数理科学における海外研修II Overseas Training in Mathematics and Mathematical Sciences II		担当者所属・ 職名・氏名	理学研究科 教授 前川 泰則	
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期集中
曜時限	集中講義	授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
<p>本科目では、学生は各自の研究テーマと同分野の研究者が所属する海外研究機関に数週間～1ヶ月程度滞在し、研究活動ならびに現地の研究者と研究交流を行う。海外渡航を通じて各自の研究分野に関する知識を深めるとともに、より高い研究技能を身に付け、国際的に活躍する人材の育成を図る。滞在先の海外研究機関および受入教員は、学生が指導教員と事前に相談の上で決める。</p>					
【到達目標】					
<p>(1) 大学院における学生各自の研究テーマについて、海外渡航を通じてそれに関する知識を深め、より高い研究技能が身に付く。 (2) 英語で研究討論ができるようになる。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>(1) 担当教員によるオリエンテーション (2) 各指導教員による指導の下、各自で海外渡航の準備 (3) 海外研究機関に数週間～1ヶ月程度滞在 (4) 研修報告書の作成（海外渡航の終了後）</p> <p>本科目は大学院横断教育コースである「数学・数理科学イノベーション人材育成強化コース（通称：数学・数理科学コース）」を構成する科目であり、本科目の詳細はコースwebサイトにも掲載する。</p>					
【履修要件】					
<p>(1) 大学院における主要な研究テーマが数学・数理科学を基盤とする分野であること。 (2) 大学院横断教育コースの「数学・数理科学イノベーション人材育成強化コース（通称：数学・数理科学コース）」に登録すること*。*2024年4月時点においてコースが開講している場合の要件。 (3) 各自の研究について英語でコミュニケーションをとるための最低限の語学力があること。 (4) 大学等からの助成金の利用も含め、海外渡航費用が確保できる見込みがあること（助成金等の情報については、コース運営委員会にも適宜お問い合わせください）。 (5) 海外渡航2週間前までに学研災付帯海外留学保険への加入を必須とする。</p> <p>履修を希望する学生は海外渡航の計画書（所定様式）をコース運営委員会に提出し、コース運営委員会が海外渡航の可否について審査する。コース運営委員会の判断によっては海外渡航を認めない場合がある。</p>					
【成績評価の方法・観点】					
<p>海外研修前の準備（20%）、2．海外研修中の活動（60%）、3．海外研修後の総括（20%）、の三つの観点に基づき、コース運営委員会が総合的に評価する。評価の判断資料として、学生は以下</p>					
----- 数学・数理科学における海外研修II(2)へ続く -----					

数学・数理科学における海外研修II(2)

の報告書をコース運営委員会に提出する。

- (1) 指導教員が作成する海外研修準備状況に対する所見 (所定の様式)
- (2) 滞在時における学生のActivity Report (所定の様式)
- (3) 学生が作成する海外研修の総括に関する研修報告書 (所定の様式)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
特に無し。

[授業外学修 (予習・復習) 等]

海外で研究活動を行う準備をする。

(その他 (オフィスアワー等))

- ・本科目の受講にあたっては、大学院横断教育コースの「数学・数理科学イノベーション人材育成強化コース (通称：数学・数理科学グローバルコース)」のコース登録も必要となります*。 * 2024年4月時点においてコースが開講している場合。
- ・渡航先の外務省危険レベルの変動状況によっては、コース運営委員会の判断により、渡航の取り消しを命じる場合がある。
- ・コース運営委員会での審議により、1ヵ月を超える渡航についても認める場合がある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。